

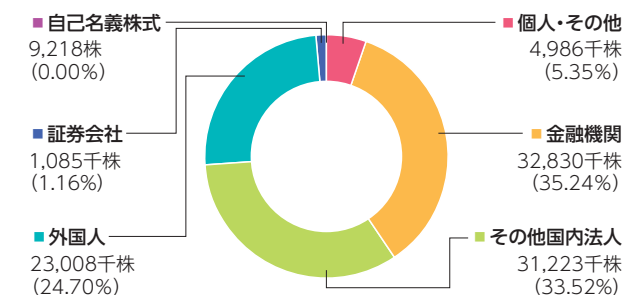
## 株式情報 (2023年9月30日現在)

株式の状況	
発行可能株式総数	288,000,000 株
発行済株式の総数(うち自己株式 9,218株)	93,145,400 株
株主数	9,864 名

大株主 (上位10名)		
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,505	10.20
日本航空株式会社	4,398	4.72
ANAホールディングス株式会社	4,398	4.72
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	3,495	3.75
株式会社日本カストディ銀行 (三井住友信託銀行再信託分・ 京浜急行電鉄株式会社退職給付信託口)	3,484	3.74
株式会社三菱UFJ銀行	3,408	3.65
株式会社みずほ銀行	3,300	3.54
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,131	3.36
三菱地所株式会社	3,111	3.34
大成建設株式会社	2,831	3.03

(注)持株比率は自己株式(9,218株)を控除して計算しております。

## 所有者別株式数分布



VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの100%植物油のインクおよびFSC®認証用紙を使用し、印刷工程で有害廃液を出さない「水なし印刷方式」を採用しています。

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
公告方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。 <a href="https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/">https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/</a>
株主名簿管理人	〒100-8241 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8241 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 お問い合わせ先 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-288-324(フリーダイヤル)

## 各種手続きのお取扱窓口について

住所変更や買取・買増請求等株主さまの各種手続きのお取扱窓口は以下の通りです。

- 証券会社等に口座をお持ちの場合  
お取引の証券会社等になります。
- 証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)

電話でのお問い合わせ **みずほ信託銀行株式会社 証券代行部**  
TEL: 0120-288-324(フリーダイヤル)

- 各種手続きお取扱店 **みずほ信託銀行**  
本店および全国各支店  
※トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。



日本空港ビルデング株式会社  
〒144-0041 東京都大田区羽田空港三丁目3番2号(第1旅客ターミナルビル)  
TEL: 03-5757-8000(代表)  
<https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/>

証券コード: 9706

日本空港ビルデング株式会社  
株主・投資家の皆さまへ

# 第80期 第2四半期 株主通信

2023年4月1日 ~ 2023年9月30日



# Top Message

**旺盛なインバウンド需要を追い風に  
収益増を図り、中期経営計画ならびに  
サステナビリティに向けた  
取り組みを着実に実行します。**



代表取締役会長  
兼CEO  
**鷹城 勲**



代表取締役社長  
執行役員兼COO  
**横田 信秋**

**羽田空港の国内線旅客数は旅行需要などの  
回復により前期から約3割増加、国際線旅客数は  
インバウンド需要により前期の約5倍となりました。**

上期の事業環境としては、新型コロナウイルスの感染症法上の分類変更に伴い、出入国制限を含む行動規制が全面的に解除され、訪日外国人は引き続き大幅に増加しました。一方で、資源高と円安による物価上昇は続き、サービス業における人手不足は深刻化しております。

羽田空港の国内線旅客数は、日本人の旅行需要などの着実な回復により、前期より約3割増加しましたが、ビジネス需要の回復遅れなどもあり、当初予想を1割弱下回りました。国際線旅客数は、旺盛なインバウンド需要により、前期の約5倍となり、当初予想を1割強上回りました。

**旅客数の増加に伴い4年振りに黒字化を達成、  
通期では営業利益、経常利益の過去最高益を  
予想しています。**

上期の連結業績につきましては、旅客数の増加に伴い、商品売上高や施設利用料収入等が増加し、売上高はすべ

てのセグメントで前期を上回りました。一方で、営業費用も大幅に増加したものの、売上の増加が牽引し連結損益は4年振りに黒字となりました。これにより、売上高は1,001億円、営業利益は135億円、経常利益は124億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は82億円となりました。

下期の事業環境としては、円安の影響もあり、中国人を含む訪日外国人のインバウンド需要は引き続き旺盛に推移すると見ております。また、資源高と円安に加え、人手不足による賃金の上昇も進み、物価上昇は継続すると想定されます。

羽田空港国内線旅客数は、上期実績と同レベルのコロナ前の約9割、国際線は、引き続き好調に増加し、コロナ前を超えて過去最多を更新し、目標値の約8割の水準に達すると想定しております。

売上高は、旅客の増加に伴い増収し、すべてのセグメントで損益は黒字に転換すると予想しております。その結果、通期の業績は、売上高は2,115億円、営業利益は247億円、経常利益は228億円、親会社株主に帰属する当期純利益は152億円となり、営業利益と経常利益は過去最高益を予想しております。

**コロナ禍からの脱却、日常回帰への流れの中、  
フロンティアスピリットを發揮し、  
お客さま満足のために必要な施策に取り組みます。**

### 施設管理運営業

当期の主な取り組みにつきまして施設管理運営業では、増加する旅客需要への対応を進めるとともに、大規模災害に備えた改修工事や設備の更新工事などを順次行っております。一方で、警備や案内等で効率的な人員配置を堅持し、コストバウンドを最小限に抑制しております。また、商業エリアの活性化を目指して店舗区画の改装を検討し、航空会社の事務室や新店舗などのテナントを誘致することで、空室の減少の取り組みなどを進めております。そのほか、第2ターミナル北側サテライトと本館との接続工事を着実に実施するとともに、第1ターミナル北側サテライト建設工事の施工者を選定するなど、将来へ向けた投資計画を着実に

に推進いたします。

### 物品販売業・飲食業

物品販売業・飲食業では、免税店舗の営業時間をコロナ前に近い水準まで戻して、売り逃しの解消とお客さまへのサービス向上を図っております。また、第3ターミナルでは、「フェラガモ」、「ロエベ」のポップアップ店をオープンするなど、引き続き店舗の再配置を進めております。このほか、本年12月には、地方創生型ラグジュアリーブランド「ジャパン・マスター・コレクション」をオープンする予定でおります。国内線では、第1ターミナルに「羽田産直館」を12月15日にオープンし、全国の新鮮な一次産品や特産品を販売することで各地の魅力が羽田空港から発信してまいります。

### 新規事業・ノウハウ事業

新規事業・ノウハウ事業では、国内ECサイトを改修し、越境ECのチャネル拡大を図るとともに、利便性の向上にも取り組んでおります。また、羽田空港に隣接する大規模複合施設「HANEDA INNOVATION CITY」において、空港の課題解決に異業種連携で取り組む研究開発拠点「terminal.0 HANEDA」を、来年1月に開設する予定で、当社とともに研究・開発を行う参画企業をさまざまな分野から募集し、準備を進めております。そのほか、放射冷却素材「ラディクール」やロボット外販などの代理店事業については、地方空港への営業を行う一方で、商業施設やオフィスビルなどの空港外への新規開拓のために、2次代理店網を整備してまいります。

### 経営基盤

経営基盤では、DX戦略として赤外線カメラ等を使って館内の人流を測定する実証実験を開始し、羽田アプリで混雑情報を配信するほか、需要予測や人員の適正配置へと応用することを目指しております。また、組織・人財面としては、産学連携プロジェクト等を実施するほか、教育・研修制度を充実させて既存人財を再活性化するとともに、女性活躍推進セミナーを開催するなど、企業風土の変革を図り、ダイバーシティ&インクルージョンを推進してまいります。

最後になりますが、コロナ禍から脱却し日常へ回帰する中で、羽田空港は2020年3月に実施された国際線発着枠拡大

の効果が発揮される局面となってまいりました。当社は、本年7月に創立70周年を迎えましたが、資源価格の高騰や中国経済の動向、さらには欧州や中東での世界情勢の変動など、混迷する事業環境の中で、一人ひとりがインナーブランディング活動「プラスワンプロモーション」に取り組むとともに、会社全体としてもフロンティアスピリットを發揮し、長期的な目標を見据えて、必要な施策を着実に実行してまいります。

**中間配当金は復配となる1株当たり25円とし、  
年間配当金は1株当たり50円を予定しています。**

株主の皆さまへの利益還元につきましては、羽田空港の一層の機能強化が求められる中、今後の大規模投資を考慮して内部留保を確保すると同時に、安定した配当を継続して実施することを基本方針としております。当期の中間配当金につきましては、前回予想から9円増額して1株当たり25円といたします。また、期末配当金につきましても前回予想から9円増額し1株当たり25円とし、年間配当金は1株当たり50円を予定しております。今後も、業績に応じて積極的に利益還元を行い、中期経営計画の目標指標としての配当性向30%以上を念頭におきながら株主の皆さまへの利益還元を務めてまいります。

株主の皆さまには、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第2四半期決算と通期業績予想			
決算ハイライト (2024年3月期 第2四半期連結業績)			
売上高	1,001億円	経常利益	124億円
営業利益	135億円	親会社株主に帰属する四半期純利益	82億円
通期業績予想 (2024年3月期 2023年10月25日発表)			
売上高	2,115億円	経常利益	228億円
営業利益	247億円	親会社株主に帰属する当期純利益	152億円

2023年7月20日に

# 70周年を 迎えました

挑戦のその先にある、  
誰も見たことない  
空の玄関へ。



東京国際空港ターミナルビル正面(1960年頃)

当社は、1953年に国内初の100%民間資本によるターミナルビルの建設、管理・運営を行う会社として設立され、「公共性と企業性の調和」という企業理念のもと、あらゆる時代を切り拓いてきました。また、「訪れる人に安らぎを、去り行く人にしあわせを」というCS理念のもと、おもてなしの心を大切に、より良いサービスを提供してきました。

今の時代、予測不能な出来事も起こりうる中で、社会から求められる価値観も大きく変わりつつあります。当社は、羽田空港を“日本の空の玄関口”として、さまざまなステークホルダーの皆さまに満足していただける世界一の空港「To Be a World Best Airport」の実現に向け、人への

心遣いはもちろん、地球への心遣いまで視野を広げ、「人にも環境にもやさしい先進的空港」を目指し、次世代の「公共性と企業性の調和」を実現していきます。

そのためには、創業以来のフロンティアスピリットを継承し、従業員一人ひとりが今の業務になにかひとつをプラスにチャレンジしていくプラスワンを掲げ、挑戦し続けていきます。そして、新しいことに挑戦する人が増えることにより、人として、企業として日々進化することが、世界一の羽田空港の実現に近づいていけるものと確信しています。

引き続き株主の皆さまには、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 日本空港ビルグループのコーポレートロゴを刷新しました!

予測不能な出来事が起こりうるこの時代に、常に進化の道を選べる空港であり続けるという決意を、グループ一体となって表すために当社創立70周年にあたる7月20日に、グループ全20社のコーポレートロゴを刷新しました。このロゴマークには、これまで大切にしてきた理念などの思い、そしてこれから提供していきたい価値・企業イメージを込めています。

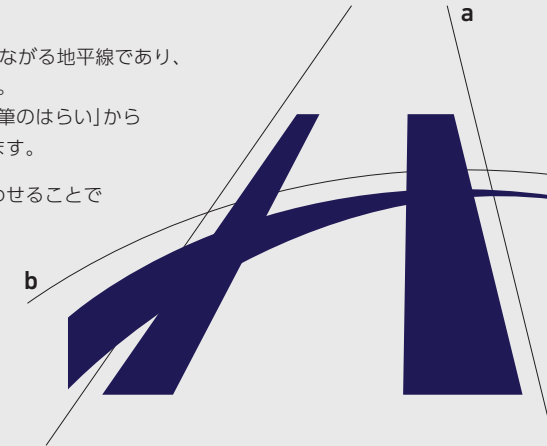


**Concept :** 羽田空港は、可能性の交差点です。グループ企業や社員の多様な個性をクロスさせ、日本空港ビルグループならではの未来を創造する、「HANEDA CROSSING」というコンセプトから開発された新しいロゴマークは、そんな一体感をオリジナル造形の「H」で表現しています。

a : 縦のラインの直線は、共通の未来に向かって伸びていく滑走路であり、「人へのひたむきなまなざし」。

b : 横のラインの曲線は、世界とつながる地平線であり、「地球や環境への雄大なまなざし」。また、日本の伝統文化である書の「筆のはらい」から着想を得て、躍動感を表現しています。

そして、その2つの目線を掛け合わせることで「未来への飛躍」を表しています。



シンボルカラー  
**HANEDA BLUE**  
古くより日本の人々に親しまれ、世界からもジャパンプルーと称えられてきた「藍色」。「HANEDA BLUE」は、藍色の中でも、最も濃い「留紺(とめこん)」をベースに開発。濃い藍色は、職人さんが手間暇をかけて幾度も深く染めることで「世界を豊穡にしていこう」という願いが込められており、羽田空港を起点に世界を豊かにしていこうという意思を示しています。

～より便利でストレスフリーな羽田空港の実現をめざして～

## 空港の課題解決に異業種連携で取り組む研究開発拠点

当社は、加速度的に変容する環境の中で「お客さまの心に届く最高品質のサービスを提供し続ける」ために個別の課題に対して自社がより深くコミットし、かつ専門性の高い異業種と横断的に連携しつつ研究開発を行っていく拠点としてterminal.0 HANEDA (ターミナル・ゼロ・ハネダ)を2024年1月末に開業します。

目指す姿 人のこころを動かすために、空港が出来ることのすべて。

価値観、テクノロジーが変化する中でも、人間の心・感情・感性、刺激や情報を受け取り感じ取る能力は変わらずに存在し続けます。私たちは、心が豊かになることは永続的に価値のあることと考え、周囲への配慮と共生、共感や感動、想像力、表現力、固定概念からの解放、愛情表現を通じて、お客さまが羽田空港で感じる気持ちや、心に響くような“ワクワク感”、“あたたかさ”、“笑顔”、“やさしさ”といったもっとも大切な部分を、これからも追及し取り組んでまいります。

快適性



多様なモビリティシステム

利便性



ロボット技術を用いた手荷物預かり

機能・効率向上



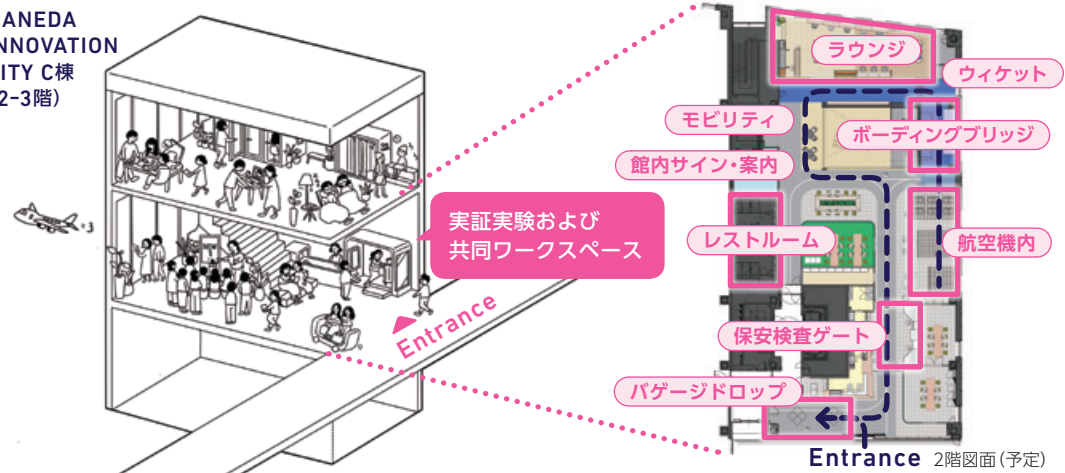
ノンストップ型保安検査

感性～やすらぎや心地よさ～



緑あふれるラウンジ空間

HANEDA INNOVATION CITY C棟 (2-3階)



# terminal.0 3つの機能

## 1 連携・交流

当社が主体となり開発テーマを形成し、参画企業同士の情報交換や交流を促進する

- 空港の課題やニーズを日々共有  
当社のグループ会社（施設管理運営、物品販売、飲食業を営む19社）およびエアラインを含めた関係会社とのディスカッション等を開催し、空港の課題を共有いたします。
- terminal.0の運営・共創を促すイベント等の開催

空港への導入を目指し、より有効かつ活動的な施設であり続けるために、各企業からいただいたご意見を反映しながら、当該施設を運営します。また、参画企業同士のコミュニケーション活性化や、情報交換等を目的に、さまざまなイベントも開催いたします。



## 2 実証実験

(テストフィールド)

terminal.0内に、空港の設備や機能、航空機内設備を有したモックアップを整備施設内で空港機能・旅客動線を再現し、専門性の高い実証実験が可能

- 参画企業は、より確度の高い実証実験が可能となり、羽田空港への導入を目指します。

※セキュリティや安全性を十分に確認したうえで、実証実験を通じて、羽田空港への導入を目指します。



## 3 発表・PR

(プレゼンテーション)

研究した内容、成果を発表する場を創出発表の場として、実証実験の検証や結果をプレゼン

- terminal.0での実証実験を当社の運営部門に展開し、羽田空港への本格導入を目指します。
- terminal.0専用のWEBサイトを開設、研究成果をアニュアルレポートとして作成し、対外的に展開していきます。



※ terminal.0 HANEDA: 空港というテーマについて、ゼロから構築していくこと、ゼロからスタートしていくこと、ゼロから羽田空港のterminal 1・2・3につなげて発展させていくこと、既存の概念にとらわれず、可能性をゼロから追及していく思いから命名

# 統合報告書2023を発行しました

すべてのステークホルダーの皆さまに、当社グループへの理解をより一層深めていただくため、中長期的な成長戦略、サステナビリティに関する取り組みなどをまとめた統合報告書を初めて発行しました。基本理念「公共性と企業性の調和」に基づき、経営戦略を着実に実行し、当社が生み出した価値を循環し続けていくことで、当社グループの成長と持続可能な社会の実現への貢献を図ります。

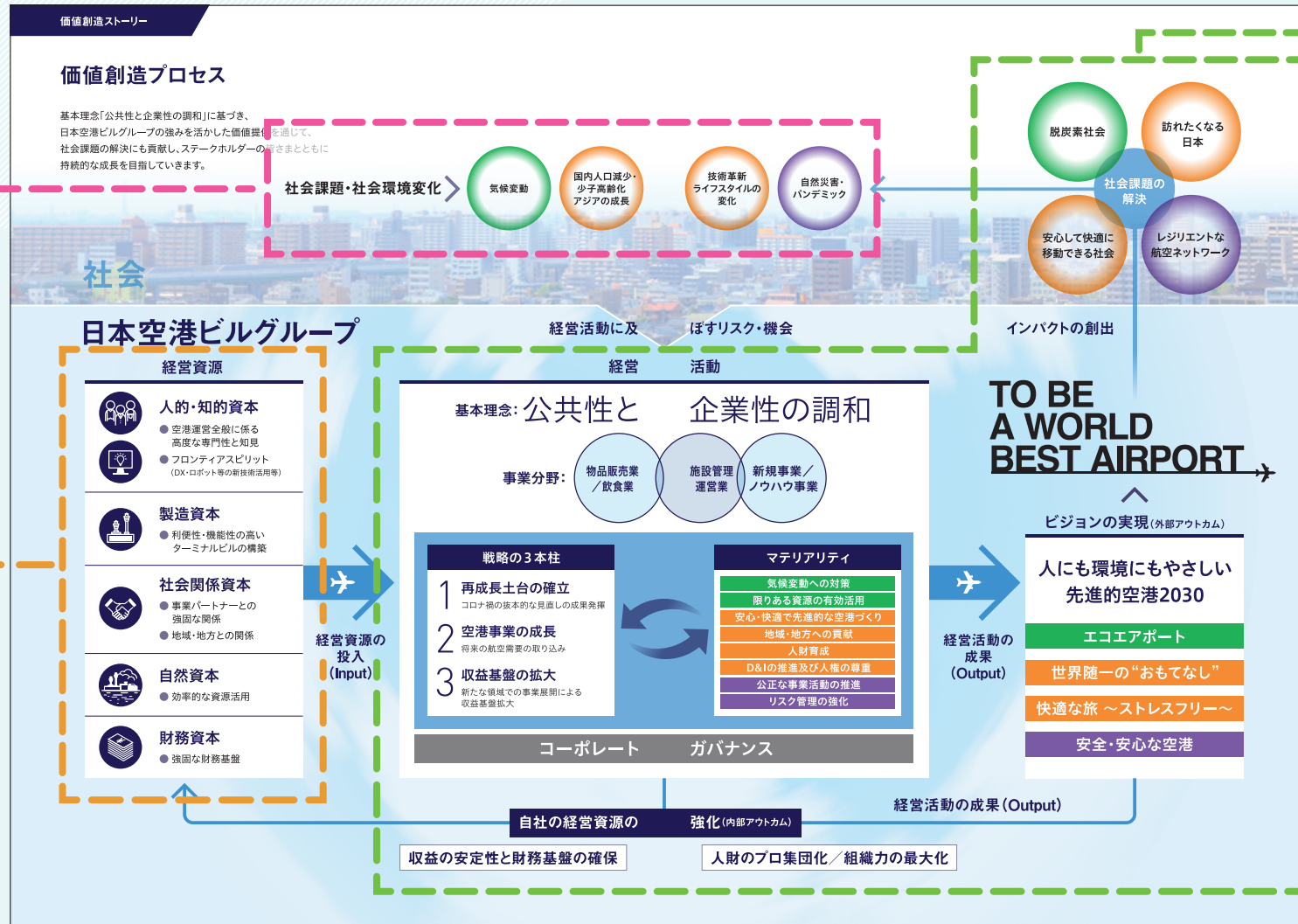
## 社会課題・社会環境変化

当社グループの経営に影響を与えることが予想される環境与件について、行政(国土交通省)や航空業界の動向を整理するとともに、事業環境の変化や社会環境の変化を考慮しています。

## 経営資源

当社グループは、創業以来、社会の変化やニーズに対応することで、強みの源泉となるさまざまな資本を積み上げてきました。これら資本の戦略的な活用により、さらなる価値創造を追求していきます。

日本空港ビルグループの価値創造プロセス図(統合報告書2023より)



## 経営活動および目指す姿

長期ビジョン「To Be a World Best Airport」の実現に向け、2030年の目指す姿「人にも環境にもやさしい先進的空港 2030」からバックキャストした中期経営計画を策定しています。コロナ禍の影響を受け、変容する事業環境に適切に対応するため、戦略の3本柱として「再成長土台の確立」、「空港事業の成長」、「収益基盤の拡大」を掲げるとともに、「サステナビリティ」を戦略の中核に位置付け、中期経営計画を着実に実行していきます。当社グループの特定したマテリアリティ(重要課題)の解決に本業を通じて取り組むことで、社会および自社グループに社会的価値・経済的価値を提供していきます。

統合報告書全文はこちら



## Topics 2

### 羽田空港から日本全国の魅力を発信する「羽田産直館」がオープン

当社は、首都圏と日本全国各地域との交流創出、日本全国の魅力発信に貢献する場として「羽田産直館」を羽田空港第1ターミナル2階に2023年12月15日にオープンします。「日本を知る。羽田で知る。」をテーマに、旬の新鮮な一次産品や地域特色あふれる全国の特産品を販売するほか、全国1,718市町村の「食・観光・住」の魅力をPRできる機会を提供し、継続的に地域の魅力を羽田空港から発信します。今後も当社は、中期経営計画の取り組みの1つである羽田空港の場とネットワークを活用した地方創生への貢献のため、各地の知られざる逸品を、産地の魅力とともにお届けしていきます。



## Topics 3

### 日本各地の優れた素材・技術・感性を100年後も存続させる「ジャパンマスタリーコレクション」

当社と東京国際空港ターミナル株式会社は、羽田空港第3ターミナル出国エリア内に、日本発の地方創生型ラグジュアリーブランド「JAPAN MASTERY COLLECTION (ジャパン マスタリー コレクション):以下JMC」(株式会社羽田未来総合研究所運営)ブランドショップを2023年12月にオープンいたします。JMCは、羽田空港から旅立つ国内外の方々とのタッチポイントである出国エリア内で、「伝統に、驚きを。文化に、遊び心を。」をコンセプトに、現代×伝統の掛け合わせや、日本のクリエイター・伝統工芸・ファッション・雑貨等の切り口で、オリジナルを含む日本の各地に息づく本物のコレクションを展開してまいります。単なるメイド・イン・ジャパン商品の展開ではなく、「守るべき日本の美と技」を未来へ残していくためのプラットフォームを構築し、製品への評価、生産者への資金の還元、後継者育成をJMCを通じて総合的に目指してまいります。



## 事業別概況

すべての事業において、対前期で増収となりました。

### 施設管理 運営業

- 歩合賃料収入は増加したものの、コロナの水際対策終了に伴う検疫スペースの返却等により家賃収入が減少
- 羽田空港国内線、国際線の旅客数の回復により旅客取扱施設利用料収入が増加
- ラウンジ収入、駐車場収入等が増加

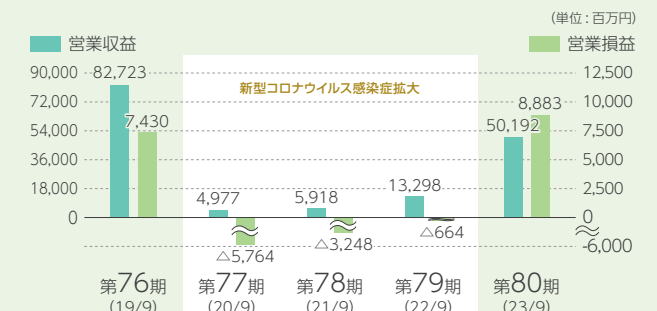
44%



### 物品 販売業

- 羽田空港や成田空港等での旅客数の回復および円安による免税売店の購買単価の上昇等により、商品売上が増加
- 地方空港国際線向けの卸売売上が増加

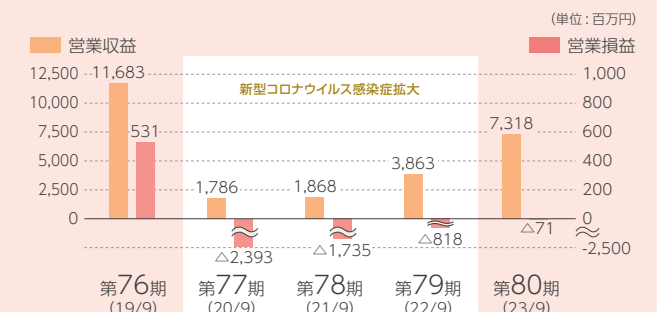
49%



### 飲食業

- 主に羽田空港国内線等の旅客数の回復により、飲食店舗売上が増加
- 羽田空港、成田空港での外国航空会社の旅客数の回復に伴い、機内食売上が増加
- 人手不足による店舗の営業時間短縮や、原材料高騰に伴う売上原価の上昇等により営業損失となったものの、赤字幅は前期比で縮小

7%



※第78期の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。

## 四半期連結 貸借対照表のポイント

### ① 資産合計

羽田空港国内線、国際線の旅客数の回復により、商品売上が増加したこと  
で売掛金が増加したこと等により、  
前期末に比べ50億7千9百万円増加  
し、4,520億3千5百万円となりました。

### ② 負債合計

商品仕入が増加したことにより買掛  
金が増加したものの、長期借入金の  
約定返済で固定負債が減少したこと  
等により、前期末に比べ43億3千  
4百万円減少し、3,016億6千9百万  
円となりました。

### ③ 純資産合計

利益剰余金および非支配株主持分  
が増加したこと等により、前期末に  
比べ94億1千4百万円増加し、1,503  
億6千5百万円となりました。この  
結果、自己資本比率は34.9%(前期  
末33.6%)となりました。

(単位:百万円)

四半期連結貸借対照表	前期 2023年3月31日現在	当第2四半期 2023年9月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	114,988	130,091
固定資産	331,967	321,943
有形固定資産	266,114	255,516
無形固定資産	31,810	30,725
投資その他の資産	34,042	35,701
<b>① 資産合計</b>	446,955	452,035
<b>負債の部</b>		
流動負債	49,125	53,415
固定負債	256,878	248,254
<b>② 負債合計</b>	306,004	301,669
<b>純資産の部</b>		
株主資本	149,217	155,960
その他の包括利益累計額	1,069	1,818
非支配株主持分	△9,335	△7,413
<b>③ 純資産合計</b>	140,951	150,365
負債純資産合計	446,955	452,035

(単位:百万円)

四半期連結損益計算書	前第2四半期 自 2022年4月 1日 至 2022年9月30日	当第2四半期 自 2023年4月 1日 至 2023年9月30日
<b>④ 営業収益</b>	43,613	100,148
営業総利益	34,584	67,422
<b>⑤ 販売費及び一般管理費</b>	43,858	53,913
営業利益又は営業損失(△)	△9,273	13,508
営業外収益	1,196	679
営業外費用	1,682	1,707
経常利益又は経常損失(△)	△9,759	12,481
特別利益	64	141
特別損失	36	104
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△9,731	12,518
法人税等	842	2,622
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△10,574	9,896
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△7,232	1,662
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,341	8,234

## 四半期連結 損益計算書のポイント

### ④ 営業収益

国内線と国際線の旅客数の回復に  
伴い、すべてのセグメントでの売上  
高が前年同期より増加したこと  
により、前年同期比129.6%増の  
1,001億4千8百万円となりました。

### ⑤ 販売費及び一般管理費

旅客数や売上増に伴い前年同期より  
増加し、539億1千3百万円とな  
りました。

# 会社概要 (2023年12月1日現在)

## 会社概要

商号	日本空港ビルディング株式会社 Japan Airport Terminal Co., Ltd.
設立	1953年7月20日
資本金	381億2,638万円(東証プライム上場)
事業内容	(1) 羽田空港旅客ターミナルビル建設、 管理運営 (2) 物品販売業務 (3) その他のサービス業務

## 役員

代表取締役会長兼CEO	鷹城 勲
代表取締役社長執行役員兼COO	横田 信秋
代表取締役副社長執行役員	鈴木 久泰
代表取締役副社長執行役員	大西 洋
取締役副社長執行役員	田中 一仁
専務取締役執行役員	小山 陽子
専務取締役執行役員	藤野 威
常務取締役執行役員	松田 圭史
取締役(非常勤)	植木 義晴
取締役(非常勤)	木村 恵司
取締役(非常勤)	福澤 一郎
取締役(非常勤)	川俣 幸宏
取締役監査等委員(非常勤)	柿崎 環
取締役監査等委員(非常勤)	武田 涼子
取締役監査等委員(非常勤)	岩崎 賢二

## 本社および営業所など

本社	東京都大田区羽田空港三丁目3番2号 (第1旅客ターミナルビル)
東京事務所	東京都千代田区丸の内二丁目4番1号 (丸の内ビルディング14階)
成田営業所	千葉県成田市古込字込前164番地 (成田国際空港内コスモビル)
大阪営業所	大阪府泉南郡田尻町泉州空港中1番地
中部営業所	愛知県常滑市セントレア一丁目1番地 (旅客ターミナルビル3階)

上席専務執行役員	知久 守一
上席専務執行役員	米本 靖英
上席専務執行役員	田口 繁敬
専務執行役員	神宮寺 勇
上席常務執行役員	植田 英嗣
上席常務執行役員	高橋 誠一
上席常務執行役員	蜂須賀 一世
上席常務執行役員	久保 健治
上席常務執行役員	小川 光永
上席常務執行役員	炭本 悟
常務執行役員	高橋 歩
常務執行役員	中條 謙太
執行役員	西田 明典
執行役員	高橋 将治
執行役員	佐藤 憲治
監査等特命役員	盛田 靖子
監査等特命役員	草野 裕平

# 株主優待のお知らせ

当社では3月31日時点の株主さまに対して、  
毎年6月下旬の年1回、  
株主ご優待券を贈呈させていただいております。

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、2022年6月末に発行しました「株主ご優待券」と「株主ご優待割引券」の有効期限を、2024年6月30日まで延長させていただきます。

優待内容	株主さま全員に		3年以上保有の株主さまに
	株主ご優待券	株主ご優待割引券	長期保有優待
ご所有株式数 100株以上 1,000株未満	1枚 1,000円分 	割引券(10%引) 5枚 	+ VJAギフトカード1,000円券 1枚 
ご所有株式数 1,000株以上 10,000株未満	2枚 2,000円分 	割引券(10%引) 5枚 	+ VJAギフトカード1,000円券 2枚 
ご所有株式数 10,000株以上	3枚 3,000円分 	割引券(10%引) 5枚 	+ VJAギフトカード1,000円券 3枚 

## ご利用になれる店舗/対象となる株主さま

- [ ■ 株主ご優待券 ] 羽田空港ターミナル内店舗をはじめとする当社指定の店舗にてご利用いただけます。
- [ ■ 株主ご優待割引券 ] 羽田空港、成田空港および中部空港等の当社指定の免税店舗でご利用いただけます。

### 株主ご優待券

- 羽田空港、成田空港、関西空港および中部空港の当社指定の店舗
- Japan Duty Free GINZA(三越銀座店8階)
- Air Bic Camera  
※一部店舗、商品(金券等)によってはご利用いただけない場合がございます。

### 株主ご優待割引券

- 羽田空港、成田空港および中部空港の当社指定の免税店舗
- Japan Duty Free GINZA(三越銀座店8階)  
※店舗によっては一部ご利用いただけない商品がございます。

### 長期保有優待

- 対象:保有継続期間が3年を超える株主さま  
(毎年3月31日現在の株主名簿に、当社株式1単元(100株)以上の株主として記載または記録され、かつ、同一株主番号で9月30日および3月31日の株主名簿に連続7回以上記載または記録された株主さま)

※Japan Duty Free GINZAは空港型市中免税店です。免税品の購入は羽田空港または成田空港から国外へ出国されるお客さまのみ可能です。免税品以外の商品については、どなたでも購入いただけます。 ※ご利用可能店舗は、新規オープン・撤退・業態変更等により変わる場合がございますことをご理解賜りますようお願い申し上げます。

詳しくは、下記のURLをご覧ください。

[https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/stock\\_information/preferential.html](https://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/stock_information/preferential.html)